米国カリフォルニア州　ウンシュウミカンの出荷は好調なスタート

FreshPlaza　2024年10月11日

今年のカリフォルニア州産ウンシュウミカンは出荷量の増加が予想される

カリフォルニア州産のウンシュウミカン（サツママンダリン）の今年の収穫は、好調なスタートを切ろうとしているようである。フルーティションセールス社（Ripe to you®ブランド）のジェイコブ・ラボギン氏は、「品質は、ここ数年で最も良い。今年はヴィンテージの年だ」と述べ、同社が得意とする茎と葉の付いたウンシュウミカンの品質も良いと付け加え、「着果量は昨年より少し多い程度だが、品質は天と地の差がある。今年はアザミウマが発生していないので、出荷できる果実がかなり多いことは確実だ」と述べた。

今年の収穫は、1、2週間早く始まる見込みであった。同氏は、「暑さのためにそれは一旦止まったが、今後数週間で天候が涼しくなると、着色が進んで予定通りに戻るかもしれない」と述べつつ、暑さによって果実の風味が強まったと指摘する。収穫は10月末に始まり、1月1日までに終了する予定である。

ハリケーンミルトンとマンダリンの需要

ウンシュウミカンについては良い需要が予想される。「現在、人々が店頭で柑橘類を購入しているのが見られるので、需要はあるだろう」とラボギン氏は述べ、ハリケーンミルトンが東海岸の柑橘類の収穫量に影響するかどうか、また影響の仕方によっては、カリフォルニア州産の需要が高まる可能性があると付け加えた。

なお、ウンシュウミカンの小売価格は下がっているが、生産者価格は変わっていない。

執筆者：アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

エジプト　柑橘類の輸出が初めて200万トンを突破

FreshPlaza　2024年10月14日

エジプト輸出入管理総局は、2023/24年度のエジプト産柑橘類シーズンの公式結果を発表した。輸出量が初めて200万トンの大台を超えた一方、輸出単価は下落した。ジェリラ社のエスラム・ジェリラCEOが、この数字について述べる。（以下「　」は同氏の話）

輸出は11億米ドル相当の230万トン

柑橘類の輸出量は2022/23年度シーズンと比較して21％増の239万1,145トンに達し、そのうちオレンジは193万トン、レモンは14万7千トンであった。「これはエジプトの柑橘類セクターにとって、新たな記録的パフォーマンスである。この記録的な量を達成できたのは、2022/23年度シーズンと比較して約25％の大幅な生産量の増加と、世界的な需要の着実な増加のおかげである。」

当然のことながら、輸出額は数量と同じペースでは増加せず、9億米ドルから11米億ドルに増加し、1トン当たりの輸出単価は497米ドルから474米ドルに下落した。「紅海危機の影響を受けなければ、今シーズンはもっと良くなっていただろう。豊富な供給量により、アジア向けの物流で大きな問題に直面したほか、当然のことながらほとんどの市場で価格が下落した。」

アジアへの輸出の減少

エジプト産柑橘類のアジア向け輸出は全般的に減少したが、その程度は同じではない。エジプト産オレンジの主要輸出先の1つであるインドでは、エジプトからの輸入量が2022/23年度の12万1千トンから2023/24年度には10万8千トンに10％減少した。マレーシアでは同12％減、シンガポールでは同4.6％減に留まった。対照的に、エジプト産オレンジのバングラデシュへの輸出は30％、中国向けは27％、香港向けは63％、ベトナム向けは62％減少した。「これは明らかに、輸出シーズンの初めに始まった紅海危機の影響である。すべての目的地に関して輸送時間が大幅に増加し、中国では最大90日に達した。ただし、取引先の反応は同じではない。」

例えば、中国では買い手が南アフリカ産オレンジに目を向けた一方で、インドはエジプト産オレンジに対する強い需要を維持した。バングラデシュへの輸出は、同国の不安定な経済・政治情勢の影響を受けた一方、ベトナムは1年のうちわずかな期間しか輸入せず、その機会を逃した。その他のアジア市場では状況は買い手次第であり、リスクを冒すことを厭わない人もいれば、オレンジを扱うのを控えた人もいた。そのため、シンガポール向け輸出の減少はわずか4～5%であったが、香港向けの減少は63%であった。物流の困難に加えて、各市場にはバイヤーの選択に影響を与える独自の文化的・経済的な特異性がある。」

ヨーロッパでのエジプト産柑橘類への需要の増加

エジプト産オレンジのヨーロッパ向けの輸出が大幅に増加した。スペインはエジプト産オレンジの輸入量を8万9千トンから10万4千トンへと17%増やした。フランスでは前年比86%増、英国では76%増、アイルランドでは37%増となった。「これは、危機がなくても当然起こったはずの傾向である。気候変動はエジプトに明確な競争上の優位性をもたらし、世界的な需要はこれまでになく高まっている。ただし、エジプト産オレンジは、紅海危機とヨーロッパの供給過剰により人為的に価格が下げられており、それが輸出の増加に寄与していることにも言及しておかねばならない。しかし全体として、ヨーロッパ市場がこれほど多くの量を吸収できるのは、そこに需要があるからだ。」

オランダ、ロシア、サウジアラビアが引き続き上位3カ国を占める

エジプト産柑橘類の最も重要な3大輸出先は変わらず、1位のオランダではエジプト産オレンジの輸入量が7.15%増加し、次いでロシアでは前年比35%増、サウジアラビアでは25%増であった。これら3つの輸出先を合わせると、前シーズンの62万トンに対し、2023/24年度には76万トンのエジプト産オレンジを吸収した。

新しい市場

アジア市場への到達が難しいため、エジプトの輸出業者は他の地域の扉をたたくようになった。エジプト産オレンジのカナダへの輸出は177%、ポーランド向けは117%、ブラジル向けは137%増加した。全体として、以前はエジプト産オレンジをほとんど輸入していなかった東ヨーロッパ、南北アメリカ、西アフリカ及び中央アジアの国々で昨シーズンは注文が大幅に増加した。ジェリラ氏によると、これらの国々は現下の状況による一時的な需要をによってエジプト産オレンジに巡り会っているが、安定的な輸出先になる可能性が高い。

国内市場が大量に吸収

国内市場でも、需要は非常にダイナミックである。「エジプトの人々は柑橘類に目が無いことを忘れてはならない。青果での消費に加えて、エジプトにはいくつかのオレンジ果汁濃縮工場があり、そのうちの2つは昨シーズンに立ち上げられた。柑橘類加工業は国内で活況を呈しており、国内市場の需要を押し上げると見られる。国内の市場だけでも、昨シーズンは350万トンから400万トンの柑橘類が消費された。」

「弊社の輸出量は5万1千トンで、主要な輸出業者の中で第4位を占めており、シーズンの成功に貢献したことを誇りに思っている。弊社では最近、新しいラインに投資し、2週間後に稼働する予定である。これにより輸出能力は日量900トンに増える。」

執筆者: ユーネス・ベンサイド

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）